

**木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨**

<b>会議名</b>	第 20 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
<b>日 時</b>	平成 25 年 3 月 1 日（金） 午前 10 時 00 分～正午	<b>場 所</b>	木津川市役所全員協議会室
<b>出席者</b>  (出席者…■) 欠席者…□	<b>委 員</b>	<b>【学識経験者】</b> ■中川 大委員（副会長・議長）、■松中亮治委員 <b>【市民代表】</b> ■坂本佳津子委員、■関和香子委員、■大村裕信委員、■神野勝三郎委員、■鶴岡由雄委員、■坂本利正委員、■中岡武司委員、□城野敏之委員 <b>【事業者】</b> ■菅又武之委員 ※西出 則明（西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社総務企画課課長代理）、■森本耕司委員 ※岩崎正義（近畿日本鉄道株式会社鉄道事業本部企画統括部営業企画部）、■川邊経恭委員 ※代理：大久保篤士（奈良交通株式会社乗合事業部課長）、■津田秀夫委員、□近藤智彦委員、□筒井基好委員、■梅田幹夫委員、□加藤 隆委員、□大西秀樹委員 <b>【行政機関】</b> □川合宏和委員、■木村淳三委員、■中安隆年委員、■辻村徳夫委員 ※代理：内藤 進（京都府山城広域振興局企画振興室主査）、□今西克禎委員、□滝清 基委員 □河井規子委員（会長）、□田中達男委員、□藤林英和委員	
	<b>その他</b>	<b>【オブザーバー】</b> ■（近畿運輸局企画観光部交通企画課長）加納陽之助 ※代理：小篠祥幸（近畿運輸局企画観光部交通企画課係長）	
<b>事務局</b>	尾崎課長、奥田係長、西村主任、富井主任		
<b>傍聴者</b>			
<b>議 題</b>	1. 開会 2. 議事 (1) 協議事項 ①平成 25 年度木津川市地域公共交通総合連携協議会予算（案）について ②木津南循環線の運行経路変更について (2) 報告事項 ①平成 25 年度 運行計画について ②木津川市コミュニティバスの利用状況について ③木津川市コミュニティバス 1 日フリー乗車券の利用状況等について (3) その他 ①次回法定協議会の日程について 3. 閉会		
<b>会議結果要旨</b>	1. 開 会 事務局より開会を宣言した。 2. 議 事		

	<p>運営内規に基づき、会議録の署名委員として、議長が大村裕信委員を指名した。</p> <p><b>(1) 協議事項</b></p> <p>①平成25年度木津川市地域公共交通総合連携協議会予算（案）について  「資料1 平成25年度木津川市地域公共交通総合連携協議会予算（案）」を用いて、平成25年度木津川市地域公共交通総合連携協議会予算を提案し、承認いただいた。</p> <p>②木津南循環線の運行経路変更について  「資料2 木津南循環線の運行経路変更について」を用いて木津南循環線の運行経路変更について提案し、事業者が法律に基づく手続きを行うこととし、協議事項から外すこととなった。</p> <p><b>(2) 報告事項</b></p> <p>①平成25年度 運行計画について  「資料3 木津川市コミュニティバス 平成25年度運行計画」を用いて平成25年度の運行計画について、報告した。</p> <p>②木津川市コミュニティバスの利用状況について  「資料4 コミュニティバスの利用実績」を用いて木津川市コミュニティバスの利用状況について、報告した。</p> <p>③木津川市コミュニティバス1日フリー乗車券の利用状況等について  「資料5 木津川市コミュニティバス1日フリー乗車券の利用状況等について」を用いて木津川市コミュニティバス1日フリー乗車券の利用状況等について、報告した。</p> <p><b>(3) その他</b></p> <p>①次回法定協議会の日程について  事務局が調整を行い、委員へ連絡することとした。</p> <p>3. 閉会</p>
<p><b>会議経過要旨</b></p>	<p>1. 開会  会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p><b>(1) 協議事項</b></p> <p>①平成25年度木津川市地域公共交通総合連携協議会予算（案）について  <b>【配布資料】</b>  ・資料1 平成25年度木津川市地域公共交通総合連携協議会予算（案）  <b>【主な意見・質疑等】</b>（○…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答）  ○ 予算の議論をするのであれば、先に事業計画の説明をするべきではないか。また、本来は予算のことよりも、直接住民の方にかかわる運行経路の変更等につ</p>

いて協議事項とするべきではないのか。

- ▶事業計画については、作成していないため、予算案の積算内容等について説明する。

(歳出予算科目毎に支出目的を説明した。)

- 予算の積算について説明していただいたが、バスの利用促進を、あまり検討されていないように感じられる。公共交通だよりは、毎月発行されており、非常に良いことであると思うが、標柱のやりかえなど、今までどおりのことを行うだけでは、利用促進につながらない。

- ▶来年度の取組みとしては、ガイドラインに基づく運行の見直しを行う。また、デマンド化に向けて運行事業者の決定や、手続きを行う予定である。また、他の路線についても、事業者に運行をお願いする。今後は、デマンド化について、周知に努めていきたい。

観光案内については、観光協会とも連携し、販路を拡大しながらパンフレットの配付等を進めていきたい。

- バスMMの手法があまり含まれていないように思う。この協議会の場で委員から提案された意見を反映していくようなことを行ってはどうか。

- ▶1日フリー乗車券の利用促進として、バス停の標柱へ案内の表示を行いたい。販売所も拡大しており、新たに木津駅前の店舗で販売していただいている。今後も販路を拡大し、多くの方に1日フリー乗車券を使っていただきたいと考えている。

- 平成24年度の決算は、まだ確定していないが、平成23年度は、数字の規模が大きかったように記憶している。平成24年度から予算の規模が縮小されたことで、協議会はどのような位置づけになったのか。この協議会の席上で、公共交通をより良くし、市が活性化されるよう意見を交わすことが大切ではないのか。

- ▶予算については、23年度までは協議会を通じて運行事業者に費用をしていたが、24年度からは直接、市から負担することとした。

市から協議会の予算については、繰越金を精算させていただきたいと考えている。本協議会では、引き続き地域の公共交通をどのようにしたら良いか検討いただきたい。

- 協議会としては、予算規模が小さくなった。収入についても、以前は国からの補助金は協議会の収入になっていたが、協議会の収入ではなくなった。バスの収入に関する議論は、この協議会で出来ないことになるのか。

- ▶補助金については、協議会の検討を纏めて、国に申請して、受け入れ方法も変わるようになるが、協議会に報告していきたい。出来るだけ活用できるものは活用していく必要がある。バスのシステムに係る財源の確保については、前向きにやっていく必要があり、今後ともご協議いただきたい。

## (2) 木津南循環線の運行経路変更について

### 【配布資料】

- ・資料2 木津南循環線の運行経路変更について

### 【主な意見・質疑等】(○…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答)

- これまで、協議会では、きのつバス等のコミュニティバスについて議論を行っていた。今回、初めて事業者が運行する路線バスについて提案いただいたが、何故提案されたのか。
- ▶ 法的な手続きとして、2ヶ月以上前に認可申請が必要であるが、協議会で承認されると1ヶ月で処理されることになる。できるだけ早くルートの変更を行いたいため、今回、協議会に諮って頂くよう事務局にお願いした。
- いつから変更する予定か。
- ▶ 今年の5月頃には、変更したいと考えている。
- この協議会で議論するほど緊急性があるものなのか疑問である。この場で協議して、却下されても手続きが後れるだけのことであれば、そこまでして協議すべきではないと思われる。
- ▶ 他の協議会で提案いただいていることもあり、事務局へ提案をお願いした。必ず1ヶ月後でないか、といわれると、そうではない。この協議会で承認されれば、実施が早くなるということで提案をお願いしたところである。
- 権限があれば責任が伴うことになる。この協議会で奈良交通の路線を変えることに対する権限はないと思われる。権限が無いのに判断を行うことについて、疑問に思う。
- ▶ 事務局が、事前に奈良交通と話しをしたが、利便性についてどうなるのかなど、奈良交通から明確な回答が無かったこともあり、この場で伺いたいという思いもあった。
- 梅美台、州見台の方が木津駅に向かうのに、以前は1時間に1本ほどあったが、今は1日1本しかない。きのつバスでは木津駅まで相当時間がかかるので、説明のあったルートであれば早く到着できる。
- ▶ ルートを変更すれば、迂回しなくて済むことになる。便数については、木津駅から高の原駅行きの便を新設し、昼間も最低1時間に1本運行する予定。
- 行政当局から、協議会の了解が必要であるという指導があったのか。
- ▶ ルートの変更に係る事業認可の手続きとして、標準期間で最短2ヶ月と定められているが、協議会で認められた案件については、1ヶ月で処理できるということが決まっている。
- 本件については、協議事項ではなく、協力要請として捉えるべきではないのか。
- 協議事項として判断することも出来るとは考えるが、必ずしも出来ないわけではない。この場ではまず、判断するかしないか決めないといけない。
- 事業者がルート等の変更を行う際には、運輸局から事業者に通常の処理機関を提示しているが、地域の方にとってメリットがあれば、会議の結論をいただきより早く変更できるようにするというものであり、必ず議論しなければいけない訳ではない。
- 委員それぞれが、問題点等を把握できていないのに、協議会として判断が出来ないのではないか。
- ▶ 奈良交通と市及び木津南地区の企業で議論した経過がある。企業の方は、高の原駅から木津駅までつながるような経路がほしい、というような要望もあった。一刻も早く、木津駅と高の原駅をつなげていただければ、企業や住民にメリットがあるため、協議事項として議論いただきたい。

- 今年の3月17日から高の原駅、木津駅間を走るとは、予定している。ただ、今のルートでは遠回りになってしまうため、今回の提案に入れさせていただいた。
- 協議会の規則で協議する項目は決まっていると思うが、規則で本件について協議すると判断できるのか。
  - ▶設置規約には、「地域公共交通の活性化及び利用促進に関する事項」と記載があり、この場で協議を行っても問題ないと考えている。
- 廃止する路線の周辺に、将来住宅地が出来る可能性など、協議できるデータが揃っていないのではないかと。今後、この地域のまちづくりがどうなるかといったデータが少ないので判断が出来ない。
  - ▶城山台地域が、来年3月をもって区画整理事業が終了する。計画人口1万1千人であり重要な路線となる。将来、現行のルート周辺にも人は住まれる予定もある。
- 将来、人が住む地域を路線からはずすということには疑問がある。これから人が住む地域には、路線を残しておくべき。都市づくりのセオリーとして、人が住み始める前に良いバスシステムを整備することで、良いまちづくりにしていくべきである。
- 現段階では、城山台中央で住宅が数十戸しか建っていない状況であり、まさに今、新しくバスを走らせるべきと考えている。この地域には、今までバスが走っていなかったわけではなく、朝と夜だけ走らせていた。それを、この3月のダイヤ改正に合わせて昼間を含め、増便を行うこととした。
- 現行のルート周辺に人が住み始めるのは、いつごろからなのか。
  - ▶来年の春には区画整理事業が終了し、使用収益が開始されるので、入居が始まる可能性がある。
- それであれば、その土地の値打ちは、来年の春の時点でバスが走っているかどうかによって相当変わってくるものである。来年の春の時点でバスが走っていないのは、都市づくりの戦略としてなっていない。
- これまでの話を聞いていると、必ずしも新しいルートに変更することが最善であるとは限らないと考えられる。本件については、この場で決定するのは難しい。
  - ▶本件について、この場で協議が調わなければ進められないわけではないので、今後の住宅の開発状況を見据えながら再度、調整していきたい。
- 本件については、この場では協議しないこととする。

## (2) 報告事項

- ①平成25年度 運行計画について
- ②木津川市コミュニティバスの利用状況について
- ③1日フリー乗車券について

### 【配布資料】

- ・資料3 木津川市コミュニティバス 平成25年度運行計画
- ・資料4 コミュニティバスの利用実績
- ・資料5 木津川市コミュニティバス1日フリー乗車券の利用状況等について

【主な意見・質疑等】（○…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答）

- 利用実績について、きのつバスの運賃改定との関連はどのように見れば良いのか。
  - ▶きのつバスの利用実績は運賃改定後、減少している状況。梅谷高の原線は、木津南地区から木津中学校へ通学するのに、きのつバスを利用されていたが、木津南中学校が開校した影響で、利用者が減った。今年度は、利用者が伸びているが、木津南地区の住民が増加したことが影響している。全体的に利用者が減っているのは、PR不足であると考えている。
- 運賃の改定後、継続的に利用者が減り続けている状況は、良くない。利用者が増やすため、利用促進の方策を進めるべきである。
- 加茂地域の利用状況について、山田線では7割ほど減少している。また、観音寺線では約1.7倍の増加と数値が大幅に変わっている。利用者数が大幅に変動した原因について把握されているのか。
  - ▶加茂の路線については、利用者がもともと少ないことも原因ではあるが、運行事業者に確認したところ、山田線では、自然に減少してしまったこと、観音寺線については、保育園への送迎に利用される方が新たに増えたことが、要因となっている。
- 利用状況について、同じ年度であっても、月によって利用者数にばらつきがある。グラフの表示方法を年度毎の同月比較とすることで、分析が行いやすいのではないか。
- 1日フリー乗車券の利用については、昨年開催された木津川アートの影響が多いようであるが、今後、同じようなイベントが無ければ、利用者は少なくなるということか。
  - ▶昨年の10月から今年1月までの利用者数に対する、1日フリー乗車券の利用割合は、1%台であり、利用者数は少ないと考えている。今後、販路の拡大などを進めていきたい。
- 1日フリー乗車券の販売については、木津川アートの開催に限らず、加茂駅前に設置した、臨時観光案内所で取り扱ったことが非常に大きいと考えている。今後、春にも観光シーズンが到来するので、引き続き臨時観光案内所の販売には力を入れていくべきだと考える。
- インターネット等で情報提供することも大切である。特に当尾線は、1日乗車券を利用すれば、乗り換えをしなくても得になるので、本来はもっと多くのかたが利用されてもおかしくない。是非インターネットでPRしていくべき。
- 一日乗車券の乗り方教室などを開催することで利用者を増やすことの努力も必要ではないか。
- 一日乗車券のことについてバス車両内で放送や掲示することはしないのか。
  - ▶このダイヤ改正に合わせて、チラシ等を掲示していきたい。また、ポスターについても公共施設等に掲示していきたい。
- まちづくりについて、最初に便利なまちを作った皆さんの方に住んでいただくことが重要である。便利なバスがあると、バスを利用して暮らしていただける。バスが走っていない状態でまち開きをすると、バスを当てにしない方が住まれることになる。自動車をライフスタイルとした方が何人集まっても、バ

	<p>スを利用されることはない。まちができてから、バスを走らせるという考えではいつまでたっても、そのまちは便利にならない。</p> <p><b>(3) その他</b></p> <p>①次回法定協議会の日程について 会議結果要旨のとおり。</p>
<b>その他 特記事項</b>	